

医療法人 悠康会

函館整形外科クリニック

函館市石川町2-1-15

TEL: 01330-345700

http://hakodate-seikei.com/

大越 康充 院長

おおこし・やすみつ / 岩手医科大学卒業後、北海道大学医学部整形外科入局。函館中央病院整形外科医長などを経て2007年6月に開院。医学博士、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会スポーツ医。

人工膝関節置換術に実績 膝治療のエキスパート

駐車場は50台分



開院から約7年で延べ3000件以上の膝の手術を実施。その半数以上を執刀している大越

康充院長は、膝治療のエキスパートと呼ぶにふさわしい。同院は、特に変形性膝関節症における人工膝

位に名を連ねる常連だ。

高い執刀技術はもちろん、術式も選ばれる要因の1つ。同院でおこなう人工膝関節置換術は、最小侵襲手術（MIS）を採用しており、従来20センチほど切開していたオペを10センチ程度でおこなっている。筋肉や靭帯の切開も最小限で、術後の回復も早い。切開を最小にする弊害として

関節置換術に実績があり、

昨年は198例を遂行。同置換術の手術数ランキングでは、道内3位にランクインした。それ以前も毎年上



精度の高い人工膝関節置換術を实践

あげられるのが、術野の確保の難しさ。精度の低下を危惧する声もある中、独自の医療機器を考案し、十分な術野を確保。最小限の切開でも精度の高い手術を実践している。

また、症状が中等度の患者には人工関節を用いない骨切り術を検討。人工関節置換が必要な場合には、膝関節のすべてを置換する全置換術のほか、「置換部が少ないほうが治療結果もよい」（大越院長）という方針のもと、一部分を置換する単顆置換術、病変部分が2カ所でも置換できる二顆置換術を用意している。また、2011年には医療機器メーカーとともに膝の皿（膝蓋大腿関節）の人工関節を開発。これまで膝蓋骨のみの病



なめらかな動きを再現する人工関節

変でも全置換を余儀なくされていたが、傷んだ部位のみの置換が可能となった。

人工関節の耐用年数は20年ほどと言われ、手術のタイミングは60代が一般的だが、痛みに耐えきれず4代でも手術を希望する患者もいる。

「ほかに選択肢がない場合は、再手術の可能性も伝えた上で手術に臨んでいます。膝のプロとして患者を救いたい。さじを投げることは絶対がない」と40代50代の手術を敬遠する医師が多い中、大越院長は前向きだ。

そのほか、スポーツなどの外傷によって生じる半月板損傷や膝前十字靭帯損傷などにも精通靭帯再建術や半月板縫合術などのオペも数多く実施している。